

地域を愛し、自立と共生ができ、未来を創る子ども

直東学園ニュース

直江津東中学校区すこやかネットワークだより

令和2年度 第6号
令和2年11月25日発行
<発行・編集 >
直東学園 事務局
〒942-0041
新潟県上越市安江 282-1
(上越市立直江津東中学校内)
TEL : 025-543-2729
FAX : 025-543-4150
E-mail : higashi-cs@jorne.or.jp

コロナ禍における「キャリア教育」

直東学園で、「キャリア教育」を中核とした生き方教育を推進して、6年目となりました。

今年度も、直東学園共通の取組として、右の「育てたい資質・能力」を意識しつつ、各学校で工夫された取組を実践しています。各校の取組は、2ページ目以降をご覧ください。

コロナウイルスにより、世の中全体の先行きが不透明です。そのため、各種交流活動も制限を受けています。キャリア教育の取組にも制限がかかることは、やむを得ないところです。

育てたい資質・能力
人間関係形成能力
自己理解・自己管理能力
課題対応能力
キャリアプランニング能力
郷土愛

キャリア教育は、新学習指導要領により特別活動に位置付けられましたが、全教育活動（休み時間も授業も行事も含めた）の中で進め、(右上の) 資質能力の育成を図っています。

直東学園では、9年間を通して以下のような共通取組を行っています。

小4 : 1 / 2 成人式	小1～6 : 総合や特別活動の時間等でのキャリア教育の取組
中1 : ようこそ先輩	中2 : 職業体験 (キャリアウィークの取組)、立志式
中学生が、母校に出向いての挨拶運動 等々	

これら取組のうち、コロナウイルスの影響により、中2の職業体験が(上越市内全中学校で)中止となりました。まことに残念ですが、この状況下では、やむを得ないことです。

ただし、直東学園の皆様のお力添えで、中1の「ようこそ先輩」の取組は実施されました。

「ようこそ先輩」は、直東学園の小中学校を卒業し、現在様々な職業に就いている28歳の先輩から授業を受けるものです。これにより、仕事のやりがい、苦勞、どんな能力が必要か、多くのことを生徒たちは学びます。おそらく、今の学びと関連付け、学習意欲も高まりやすくなるでしょう。将来のことを考える力(キャリアプランニング能力)を磨く大切な場面になります。

また、尊敬できる先輩との出会いは、子どもたちに明確な仕事へのプランや夢を与えたいと思います。何よりも、良い生き方モデルを身近に感じる機会になっていることと思います。



令和2年度の
「ようこそ先輩」の授業から

問題行動を起こす多くのケースでは、「後先を考えない」「目先の楽しさしか見えていない」事例がほとんどです。キャリアプランニングの力を磨き、少し先の将来を考える力を付けることで、「他人の気持ち」と「自分の将来」を考え、行動できる人となることを期待しています。

キャリア・パスポートの取組がスタートしました。夏休み中の「夢ナビシート」の取組や、年度初めの目標設定や決意が、綴られ始めています。保護者の皆様も折々に目にする機会があると思います。今後は、小学校入学から高校を卒業するまでの12年間の取組を保管し、引き継ぎながら進んでいくこととなります。(小⇒中⇒高校へキャリア・パスポートは引き継がれます)

北諏訪小学校の取組

【体験から学ぶ生活科、総合的な学習の時間】

身近な人や自然と触れ合いながら、人とのかかわり方を身に付けてきた1年生。野菜栽培を通じて、地域の人とかかわったり課題を解決したりしている2年生。地域探検で抱いた疑問を解決することで、地域の特徴や人の思いに気付いた3年生。飯田川探検を通じて、川が地域にもたらす恵みや災い、災害から守ろうとする人々の努力を学んだ4年生。稲作体験を通じて、食を生産する苦労を体感し食の大切さに気付いた5年生。戦争について様々な面からアプローチし、自分にとっての平和を考えた6年生。子どもの意識に沿った活動を展開することで、学びを深め、自己を見つめ直したり地域のよさを再認識したりしています。

【学びの成果を表出した文化祭】

文化祭の学習発表会では、各学年が一番表現したいことを音楽や劇などで、伝えました。他学年や地域の方、家族に分かりやすく伝えるために、発表内容や方法を考えたり、話し方を工夫したりしました。発表から、活動での学びはもちろん、子ども自身の成長や友達とかかわりながら一つの物を創り上げる楽しさが伝わってきました。



【他学年とのかかわりを重視した運動会・遠足】

運動会では、リーダーを中心に応援練習やリレー練習に取り組みました。当日、競技中に熱心に応援する姿が見られました。縦割り班で歩いた遠足では、低学年を思いやる高学年の姿や励まされて最後まで歩き通す低学年の姿が見られました。それらの姿から、人とかかわりながら、自分の役割を果たそうとする子どもの意思を感じました。



保倉小学校の取組

キャリア教育の5つの資質・能力を育むために、生活科や総合的な学習の時間、特別活動の時間を中心に取り組んできました。実践をする上で大切にしてきたことは「人とかかわる」「社会とつながる」「自分を見つめる」の3つの視点です。

【人とかかわる・自分を見つめる】



6年生は、総合的な学習の時間を利用して、自分の未来設計図の作成を目指した学習を行ってきました。

宿泊体験学習では、岩の原葡萄園に行き、実際にワインづくりをする職人さんの話を聞いてきました。そこから、自分が希望する職業を目指すためには何が必要かを考えることができました。自分の強さや長所を将来の仕事に生かしたいという願いが生まれ、職業に対する向き合い方を真剣に考えることができました。

【社会とかかわる】



4年生は、地域の「五野井みどり保全会」の方々と白鳥の飛来に関する学習をしました。

学習を通して白鳥のえさとなる「マコモ」の存在を知りました。その「マコモ」を6月に池に取りに行き、学校で育ててきました。秋、白鳥が飛来する頃、「マコモ」を下吉野池に移植する活動を行ってきました。先日は、白鳥が羽を休めている場所に行き、観察も行いました。今回の「マコモ」の育成を通して、地域に飛来する白鳥に対しての思いや、地域に対しての関心も高まりました。



有田小学校の取組

【低学年】～人間関係形成、自己管理～

1年生は、自然に親しみ、アサガオの栽培やヒツジの飼育をしました。自分からかかわることや、生命を大切にすること、友達や地域の方と一緒に協力するよさを学びました。2年生は、粘り強く工夫しながら野菜を育てました。また、仲間や地域の方に教えていただきながら活動する楽しさを学びました。

2年生 ジャガイモ掘り



【中学年】～共感性、情報活用～

3年生は、町探検を通して地域の「いいね」を発見する活動を行いました。発見した「いいね」をポスターなどにまとめ、地域のよさを再確認し、情報の収集と発信の仕方について学びました。4年生は、水やごみなどの身近な環境について学びました。環境問題を自分事としてとらえ、新聞やチラシ・放送など、様々な方法を考えて発信していきます。

【高学年】～自己管理、協働性～

5年生は、稲作体験を通し、米づくりについて学んだり、農業の課題について考えたりしました。今後は収穫した米で地域の方々とかかわったり、発信したりする活動に取り組みます。6年生は、様々な職種の方から働くことの喜びや苦勞を学びました。また、高齢者疑似体験や車いす体験をし、当事者の気持ちに寄り添いました。これらの活動により、これからの自分の生き方や将来に向けての夢を考えました。

6年生 車いす体験



春日新田小学校の取組

【人とかかわる】

6年生の総合的な学習の時間では、「プロフェッショナルに学ぶ」というテーマで活動しています。助産師やパティシエなど、プロとして社会で活躍する方から、自身の職業について話していただきました。仕事の内容を詳しく知るだけでなく、大変なことや楽しいこと、仕事に対する思いなどについて聞くことができました。子どもたちは、「好きなことを仕事にして、相手の喜びも感じられてとてもやりがいがある」「目標をもち、もっと努力しよう」「たくさんの人に出会って将来につなげていきたい」など、自分の将来を見つめました。



【郷土を愛する】

4年生は、「春日新田を元気に！きらめきコスモス畑大作戦」をテーマに活動しています。関川の河川敷に毎年コスモス畑を作っている塚越さんにお話を聞き、地域を元気にするために自分たちにも何かできることはないかと考えました。1学期には、クリーン活動などを行いましたが、今年は関川河川敷でのコスモス栽培ができなくなり、地域の方にご協力いただいて校区内のいくつかの場所にコスモスを植えさせていただきました。

【自分を見つめる】

夏休みの課題で、「わたしの夢シート」に取り組みました。自分の夢について家族と語り合い、自分の将来を考えるきっかけになりました。学校では、教育相談週間に合わせてキャリアカウンセリングを行いました。一人一人の子どもたちの夢や目標を担任と共有し、そのために今頑張っていることを認め、今後の意欲につなげる機会となりました。

直江津東中学校の取組

【ようこそ先輩（1年生の取組）】

卒業生5名の方から講師をしていただき、働くことの意義、楽しさや大変さなどを伝えていただきました。「今日話を聞いて、コミュニケーション能力が大切で、今からでも仕事に役立つことができることが分かりました」など、生徒の感想もたいへん前向きな内容が多かったです。



【立志式（2年生の取組）】

今年度は職場体験学習が中止となったため、例年とは違う内容で実施しました。

第1部では、演劇集団スタートラインの指導者 石田幸雄様からご講演をいただきました。「人間は生きるために生きる」という力強いメッセージをいただきました。

第2部の決意表明では、各学級の代表生徒1人が立志にあたり、書き綴った作文を読み上げました。生徒はそれぞれ将来の夢に向かって努力する決意を述べ、ひとまわり大きく成長した姿を見せてくれました。すべての生徒が素直な気持ちで練習に取り組んだ、その成果が十分に発揮された立派な立志式でした。



立志式

すっかり恒例となった、東中学校の立志式を10月20日(火)に開催しました。



今年度の2年生は173名です。新型コロナウイルスの影響から職場体験学習を実施できませんでしたが、それに代わる校内学習でキャリアアップを図ってきたそうです。

今回は、長年城北中学校の「スタートライン」(生徒、地域に向けた生徒の有志による演劇公演)の演出・演技指導に携わってこられた「マル丸山」こと石田幸雄様から講話をいただきました。「夢はどんどん進化していく」「わくわくセンサーのおもむくままに突き進めていけば自分の夢になる」「失敗を恐れずストレートに突き進む。それが、『立志』」など演劇仕立てで熱のこもったメッセージをたくさんいただきました。

コロナ禍のため、例年の様に各町内会長にお出でいただくことは出来ませんでしたが、青少年育成会議、熊木会長が代表して生徒へ立志のバッジと証書を贈呈しました。

10月の事務局会議は、オンラインで!

10月5日(月)定例事務局会議において、大阪市立大学大学院、辻野けんま准教授からオンラインインタビューを受けました。以前、上越教育大学在籍時に直東学園のアドバイザーでいらっしゃった准教授から「学校と地域の関わり」を学生の教材にするためにと依頼され、高橋理事長以下事務局員10人が夫々の活動実態について話しました。初めてのオンライン会議でしたが、東中学校の石井先生からセットして頂きスムーズな会議となりました。

今回のインタビューが、学生の学びの何らかの示唆になればと願っています。

